国東半島み仏の道　と　久住山

日時：2023 年 11 月 23 日～26 日
メンバー：A 原、S 口（は、25-26 参加）

　国東半島は、九州の瀬戸内海と周防灘に突きでたタンコブのようなところです。
　国東半島一帯に広がる寺院群を総称して「六郷満山」と呼ばれています。六郷とは、中央にそびえる両子山（ふたごやま）から放射状に伸びる谷筋に沿って、武蔵（むさし）、来縄（くなわ）、国東（くにさき）、田染（たしぶ）、安岐（あき）、伊美（いみ）の 6 つの郷のことで、また、国東半島の寺院群は、学問をするため本山（もとやま）、修行をするための中山（なかやま）、布教をするための末山（すえやま）の 3 つの群に分けられ、これらは合わせて満山と呼ばれていました。このことから、国東半島の寺院を総称して六郷満山と呼ぶようになりました。
　そして国東半島は磨崖仏（まがいぶつ）日本一でもあります。「石仏」は石でできた独立した仏像を指しますが、「磨崖仏」は石仏の一種で自然の巨石や岩壁、崖にくっついたまま直接彫られているのが特徴です。
　大分県には、全国の磨崖仏のうち約 7 割が現存（約 90 ヶ所、約 400 体）し、その多くが国東半島に残されています。
　「国東半島峯道ロングトレイル」は、豊後高田市「熊野磨崖仏」～国東市「両子寺」までの総全長約 135km の神社仏閣をまわるコースです。
　コースのいたるところにある有名無名の野仏に手を合わせる歩きは、まさに「み仏の道」でした。今回はいくつかあるコースのうち特に行きたいところを歩きました。

■11/23（木）早朝のフライトで大分空港に着いたのは 9:40。「ようこそ、おんせん県へ」の暖簾に迎えられた。大分県は県内ほぼすべてにおいて温泉が湧き出ており、源泉総数、湧出量ともに全国一なんだって。ふ～ん。大分と言えば、干しシイタケとS田さんしか浮かばなかった…。
　レンタカーを借り、まずは国東半島の最高峰である両子山へ。標高は 721m。登山口のある両子寺へ車を走らせる。11:20 両子寺（ふたごじ）は観光客でにぎわっていた。拝観せずに山に登るだけでも 300 円の拝観料が必要。ちょうど境内の紅葉が見頃だった。両子山七不思議の「しぐれもみじ」や奥ノ院、百体観音、針の耳などを過ぎるとやっと山っぽくなってきたが、結構な急斜面で滑りやすい。ロープが張ってあるのが助かる。
　樹林帯が急に開けると、電波塔が現れ、展望台があった。12:35 両子山山頂にとうちゃこ。家族連れやハイカーがランチしていてのどかだ。国東半島の最高峰から山やまや周防灘を見下ろす。

大分＝おんせん県

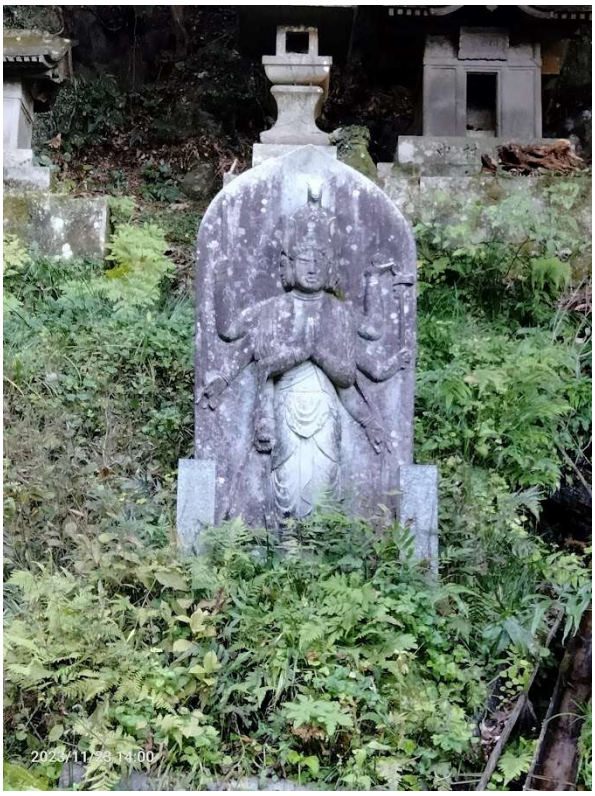
両子寺奥ノ院

次に目指すは隣のトンガリ山へ。20 分ほどで着いた。ほとんど針葉樹だが、ときどき鮮やかな広葉樹があって足が止まる。

山行中はあまり人に会わなかったが走水観音まで下りてくると観光客がちらほら。走水観音様は三つの顔を持っていた。清水でのどを潤す。さあ、もう駐車場まで一投足だ。

14:13 駐車場着。

今日の宿は、並石ダムのほとりにある「里の駅こっとん村」という豊後高田市の食堂＆観光施設のなかの宿。泊り客は私だけ。近くにはスーパーもコンビニも民家すらなく、食堂のおばちゃんに夕飯用に「だんご汁定食」を作ってもらった。夜はひろ～い部屋にぽつんとお布団１組。



走水観音

こっとん村

■11/24（金）こっとん村を出発し、中山仙境の登山口である夷耶馬農村公園に向う。途中、通行止めで迂回などして登山口には 8:50 着。

小川を渡り、杉やヒノキの樹林帯のなかの階段昇りが続く。尾根道にあがると曇って風が冷たい。ところどころに石仏が祀られ手を合わせる。

細尾根が続くが景色がいい。天空の橋「無明橋」は石の一本橋。なんてことない。

無明橋

山頂の仏さま

隠洞穴

奇岩の数々が連なり、それを登ったり下りたり、ときどき鎖場があったり細尾根だったり。最高峰の高城は 317mと標高こそ低いがなかなかの展望だ。見渡すとボコボコとした岩の峰々。修験者の道と言われるだけある。ちょっとしたピークや岩の塊には石仏が祀られている。小さな仏には雨風をしのぐように石で囲ってあったり庇があったりした。

岩をくり貫いた隠洞穴（かくれうと）でひと休み。
苔むした道を行くとやがて車道に出た 10:20。
駐車場の手前にある六所神社、実相院、霊仙寺に立ち寄る。駐車場着 10:40。
車で不動茶屋に移動。車を置いて旧千燈寺跡～本堂跡～岩屋～五輪塔～五辻不動～ゴームリーの鉄の像～不動茶屋を歩いた。
五輪塔のおびただしい数。五辻不動尊は岩壁を背に張りつくように建っている天空の不動尊。
そして山の稜線にたつゴームリー像。茶色の鉄製の君は、なぜどうしてここに？
この鉄像は、英国の彫刻家ゴームリーによるもので 2014 年の国東半島芸術祭で設置されたとのこと。
異国のひとが製作した裸像を修験の聖地に置く、ということにとても不思議で違和感があるが、きっと地元住民の理解のもと設置されたに違いない。
私は行きずりの者だけど、ゴームリーさんはもはやアート作品でなく、み仏となって慈愛をもって谷あいの村むらと周防灘を見下ろしているのだなあ、と勝手に思った。

五辻不動

海を見るゴームリーさん

今日の泊り場は大分空港そばの「ヤマカン」というアパートのような宿。部屋には台所、調理器具、トイレ、洗濯機、お風呂、ベッド、テレビがありまるで「自宅」。意外と快適だ。
19 時過ぎに到着するグッチを空港に迎えに行き、マイホームで上陸祝いをした。

■11/25（土）いい天気。今日は田染荘（たしぶのしょう）と熊野磨崖仏に行く。
9:40 真木大堂の駐車場に車を置き、真木大堂裏の「馬城山伝乗寺大展望」の階段を昇る。金毘羅宮の石鳥居はきれいな紅葉だった。馬城山山頂には狛犬と小さな祠があった。「大展望」てほどではない展望が広がっていた。
馬城山を下り、穴井戸観音へ向かう。お堂の裏には広い洞窟があり、その中に穴井戸観音様が安置されていた。
次に田染荘へ。平安時代にできた荘園「田染荘」が現代まで継承されており、「生きた荘園遺跡」となっている。

国の重要文化的景観「田染荘」

朝日観音

岩屋の頂には朝日観音、夕日観音が祀られている。どちらも村々を見守るように配置されており、朝日観音からは朝日が見え、夕日観音からは夕日が見える。

夕日観音の展望所からの「田染荘」の眺望が国の重要文化的景観に選定されている。展望所からは、車の音や稲の刈られた跡、わら焼きの青白い煙、時報を知らせる放送など、里のくらしや音を身近に感じることができる。

里に下り、田のあぜ道を行く。なんかなつかしい気分。刈り取られた稲からは緑の稲がでて、秋なのに青々とした田んぼだ。ズボンに付いたひっつきむしを払いながら田舎道を歩く。柿たわわのお宅のおじさんにあいさつすると笑顔が返ってきた。

車道に出て元宮磨崖仏へ。磨崖仏（まがいぶつ）とは、自然の崖や岩壁や大石に仏像などを彫刻したもの。元宮磨崖仏は室町時代のもので国の史跡に指定されている。グッチはお線香 1 束 50 円を奉納していた。

駐車場に戻り、朝スルーした真木大堂を拝観する。個人的にはこの旅いちばんの仏像だった。収蔵庫には、国指定需要文化財の 9 つの仏像が安置されている。

9 つの仏像→写真

真木大堂の本尊である木造**阿弥陀如来坐像**の周囲には 4 体の守護神が立っている。東西南北に立つ**四天王像**は、それぞれに甲冑（かっちゅう）をまとい、籠手（こて）と脛当（すねあて）をつけ、沓（くつ）を履き、武器を持って邪鬼を踏みつけていた。ポーズもいいが、みんな頭が小さくてスタイルがいい。

木造**不動明王立像**と**二童子立像**は、不動明王のドラゴンボールよろしく激しく燃える炎を背にポージングだ。両脇には矜羯羅（こんがら）、制吒迦（せいたか）の二童子を従えている。炎のヒーロー不道明王に比べ極端に小さく、こちらのポージングも独特でわたし的には「逃げ恥」のダンスに同じポーズがあったと思う。

最後は、木造**大威徳明王像**だ。人々を害する毒蛇・悪竜や怨敵を征服する明王なのだが、六面六臂六足（手、足、顔が 6 つある）で、お顔は忿怒相（ふんぬそう）のこわ～い表情。目は額に 3 つ目の目がある。こわ～。
中央の手は中指を立てて合わせる檀陀印（だんだいん）を結び、神の使いである白い水牛に跨っている。

どれもこれも見ごたえのある仏様だった。

真木大堂の仏像写真は豊後高田市 HP より

次に富貴寺（ふきじ）へ行く。富貴寺大堂は国宝に指定されており、宇治の平等院鳳凰堂、平泉の中尊寺金色堂と並ぶ日本三阿弥陀堂のひとつで現存する九州最古の木造建築物。天井には極楽浄土の世界が描かれていた。境内の紅葉が美しかった。

み仏の道も 3 日目となると結構な仏像や石仏の摂取量で脳内はパンパン。正直、飽きたなあ～と思ったが口には出せず、次の石仏ポイントの鍋山磨崖仏に行く。こちらも国指定史跡だ。

道路脇の P に車を置き、急な階段を昇ったところにある。アクセスがいい割にはあまり人が訪れていなさそうなちょっと荒れた感じ。

元宮磨崖仏

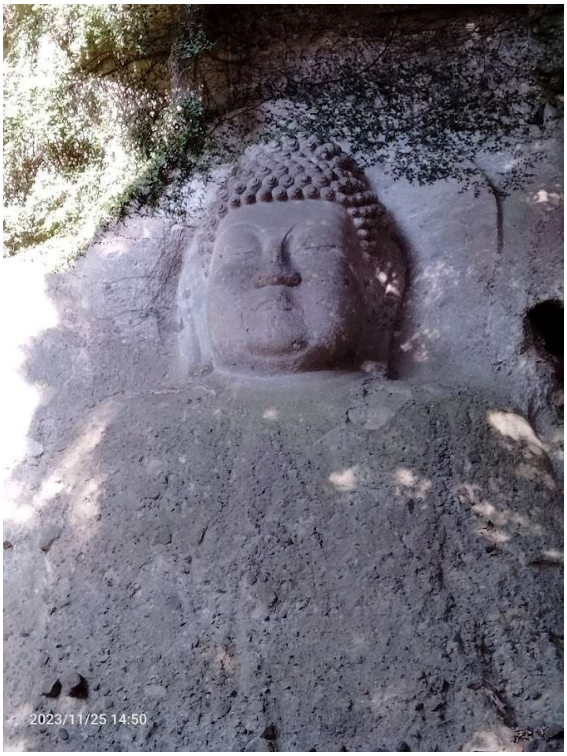
富貴寺

岩壁に仏像が大きく彫られていたが、風化が進んでいた。

そして本日最後のポイント、熊野磨崖仏。駐車場から鬱蒼とした森に入り、鬼が一夜にして積み上げたという伝説が残る乱積の石段を登る。

熊野磨崖仏は国の重要文化で国内最古にして最大級の 2 体の磨崖仏。でかい！キングオブMAGAIBUTUだ。
向かって左が不動明王。口元は笑っているよう、鼻の穴まである人間味のある表情をしている。
いっぽう向かって右には大日如来。頭はくるんくるんの螺髪。きりりとした表情の大仏様だ。どちらも高さ 7-8mほどで岩壁から浮かび上がるように彫られている。雨風にさらされ風化も進んでいるわりには、お顔は表情豊かである。

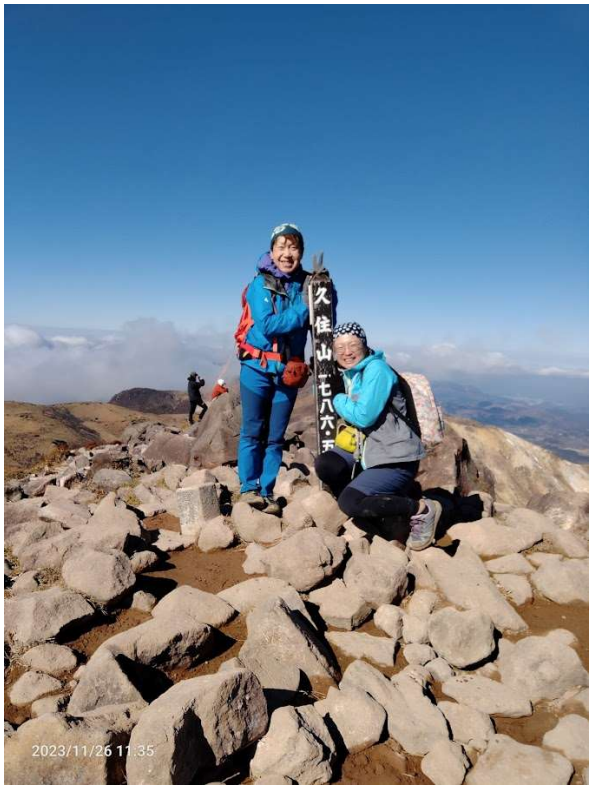
熊野磨崖仏・不動明王



熊野磨崖仏・大日如来

今日の行程を終え、本日の宿、湯坪温泉の「民宿路」へ。
食事も大変美味しかったし、温泉も内湯外湯ともよかった。

■11/26（日）今日は百名山である久住山登山。4 日目にしてやっと山らしいルートだ。
白いガスガスのなか登り口の牧の戸峠登山口 P へ。駐車場は既にハイカーで賑わっていた。登り始めはコンクリートの坂道。途中、展望台があるがガスで眺望無し。
石を重ねたような沓掛山を越える。ところどころ霜柱があり、それらが溶けたからか、数日前の積雪からか足元がぬかるんできた。
広くて傾斜のない道を行く。視界があれば山にいることを感じるのだろうがガスで回りがほとんど見えなく、ほとんど平らなところを歩いているので登山の実感がない。
まっ平なサッカー場のような広い場所でひと休みをとると、うっすらと久住山避難小屋が見えた。
傾斜が出てきて山らしい歩きになり、ところどころ雪が残っているのが見えた。
11:00 人でにぎわう山頂に着いた。ガスで展望はあまりなかった。しばらくいたが展望をあきらめ下山を開始はじめると、みるみるうちにガスが晴れてきた。おお！
白いガスが流れ、山々や稜線が現れ、下界の風景も見えてきた。太陽を背にするとブロッケンが現れた。山頂に戻って、記念撮影をし直した。
登りはガスで何ひとつ見えなかったが、こうやって俯瞰すると九重連山の丘陵や峰みねがとても美しい。周りのピークには豆粒の登山者が小さく動いている。あっちやそっちの稜線も歩いてみたいと思えた。
しばらく眺望を楽しんでから下山開始。下山は星生山経由で降りることにした。星生山はちょっとした岩場を越えていく。硫黄山はその名の通り、山肌が白く荒涼としていた。
星生山山頂を後にし、下山。左下には小さな池がいくつも点在していたが、地形図には出ていない。
ミヤマキリシマだろうかツツジ系の植生がたくさんあり、春はここいらはピンクに染まるに違いない。そのころの久住にまた来たいと思った。
どろどろの泥濘に足を取られながら、振り返ると久住の山頂はまたガスがかかっていた。
駐車場でグータッチ。お風呂は九重観光ホテルでいただいた。露天風呂からは、敷地内に温泉が湧出してるらしくモクモク噴煙が見えた。
その後は、明日のフライトで帰京するグッチと別府温泉で別れ、私は大分でレンタカーを返却し、空港でひとり打上げをし、機上のひととなった。



久住山　山頂にて

楽しい 4 日間の旅でした。概ね天気に恵まれ、紅葉も見ることができました。S ロさん、ご同行ありがとうございました。国東半島は神道と仏教が調和的に融合、同化された神仏習合発祥の地でした。日本の原風景が色濃く残り、失われかけた日本人の魂を感じることができた、まさにソウルトレイルでした。今回、歩けなかったルートを機会をみてまた訪れ歩きたいと思います。

できれば、ミヤマキリシマが咲くころ、由布岳や鶴見岳のお花見山行を兼ねて。

【行程】

11/23（木） 大分空港着＜レンタカー＞両子寺 P-両子山-トンガリ山-走水観音-両子寺 P（泊：並石ダムグリーンランドこっとん村）

11/24（金） 農村公園 P-中山仙境-高城-六所宮　旧千燈寺跡-五辻不動-ゴームリー-不動茶屋（泊：ヤマカン　夜 S ロ合流）

11/25（土） 真木大堂 P-馬城山-田染荘-元宮磨崖仏-鍋山磨崖仏-熊野磨崖仏 （泊：湯坪温泉民宿路）

11/26（日） 牧の戸峠登山口-沓掛山-久住山-星生山-牧の戸峠登山口　別府にて解散

おしまい

記：A 原